

北九州市の 男女共同参画社会に関する調査報告書

概要版

調査概要

- ◆ 対象：市内在住の20歳から75歳の男女4,000人（住民基本台帳から無作為抽出）
- ◆ 期間：平成29年10月30日～11月20日
- ◆ 回収結果：回収総数 1,582（回収率39.6%）
- ◆ 回答者の属性：「性別」 女性61.0%、男性38.3%、無回答0.7%
「年代」 20歳代 7.2%、30歳代 12.7%、40歳代 17.8%、
50歳代 20.0%、60歳代 29.4%、70歳代 12.8%、無回答 0.3%

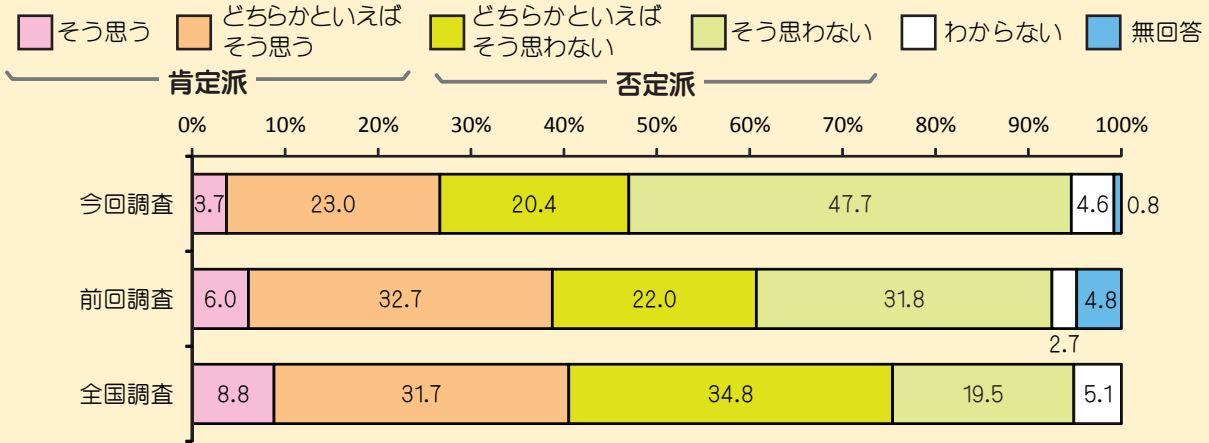
北九州市

1

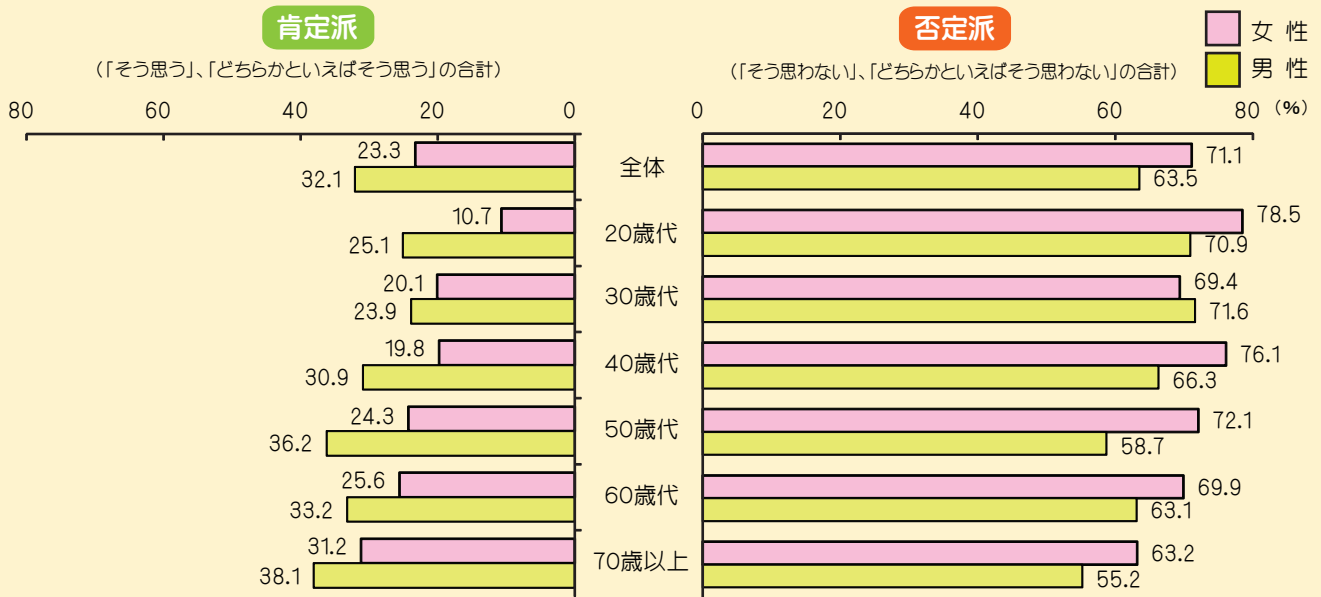
家庭や男女平等に関する意識について

(1) 「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という考え方について

前回調査（平成 23 年）に比べて、否定的な考え方を持つ人の割合がさらに高くなっています。
 全国調査（平成 26 年）と比較しても、否定的な考え方を持つ人の割合が北九州市の方が高くなっています。

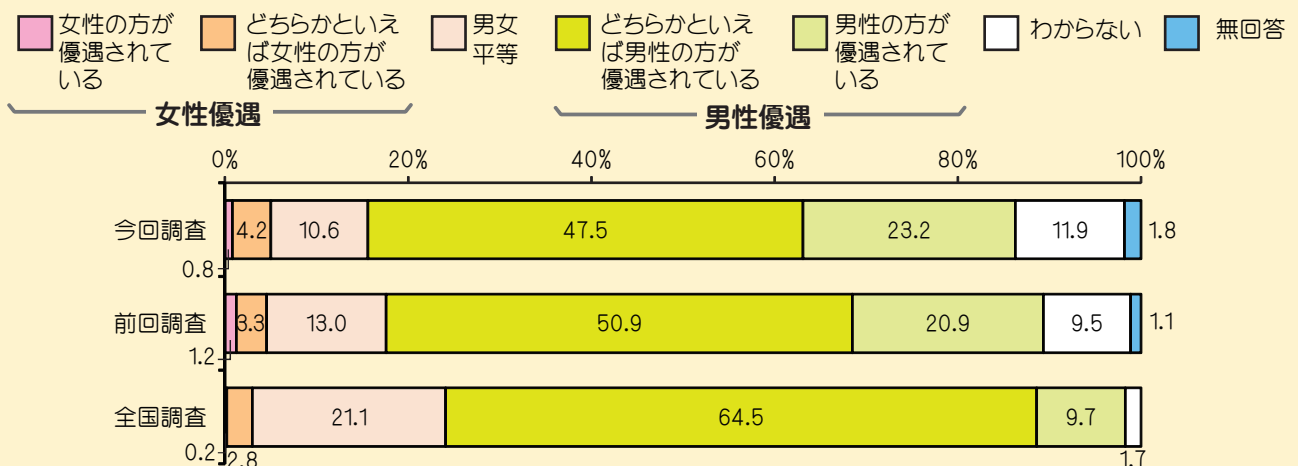


女性では、否定派が 71.1%、肯定派が 23.3%、男性では、否定派が 63.5%、肯定派が 32.1%となっており、女性も男性も否定派が肯定派を大きく上回っています。



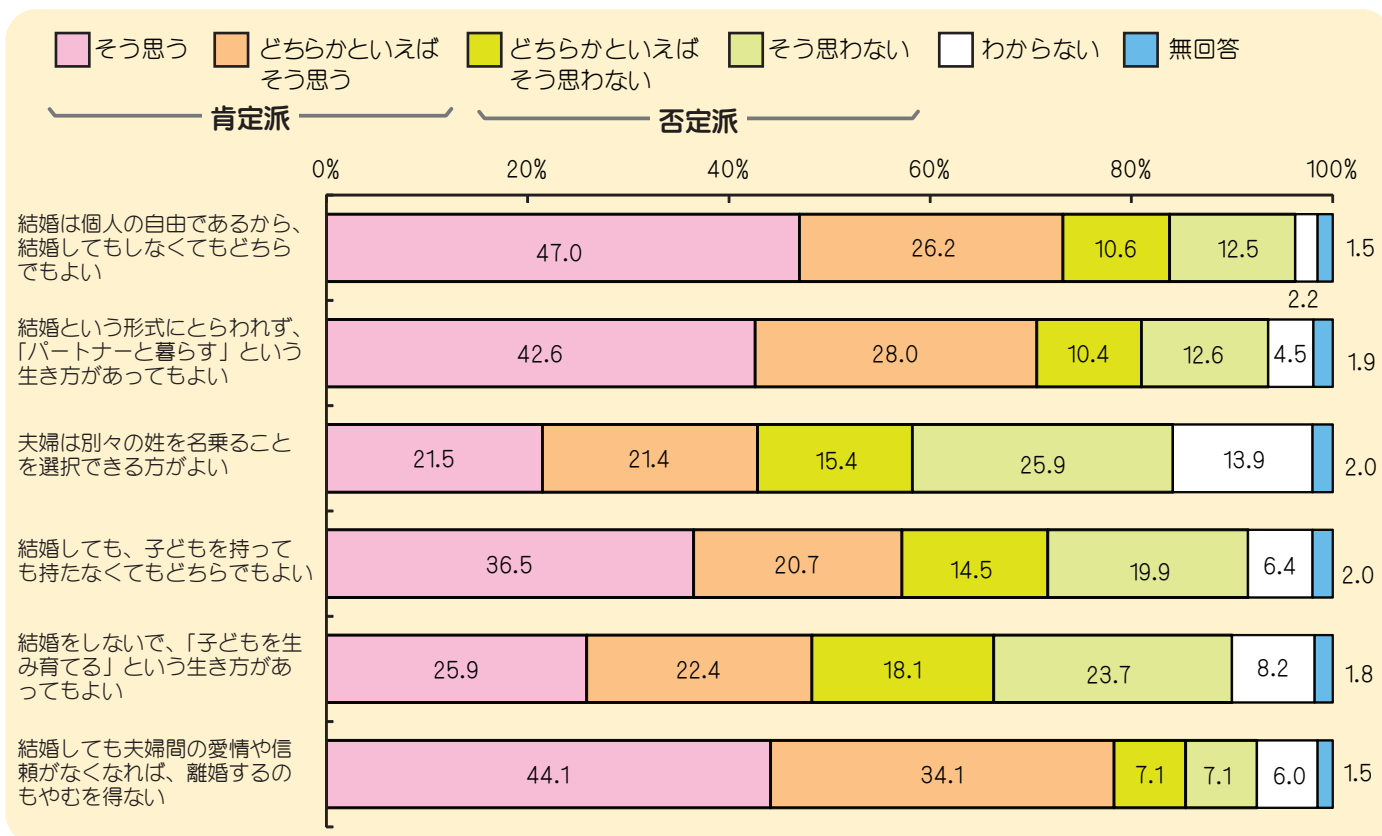
(2) 社会全体の男女平等達成感について

前回調査（平成 23 年）と同様に、依然として男性優遇の割合が高くなっています。



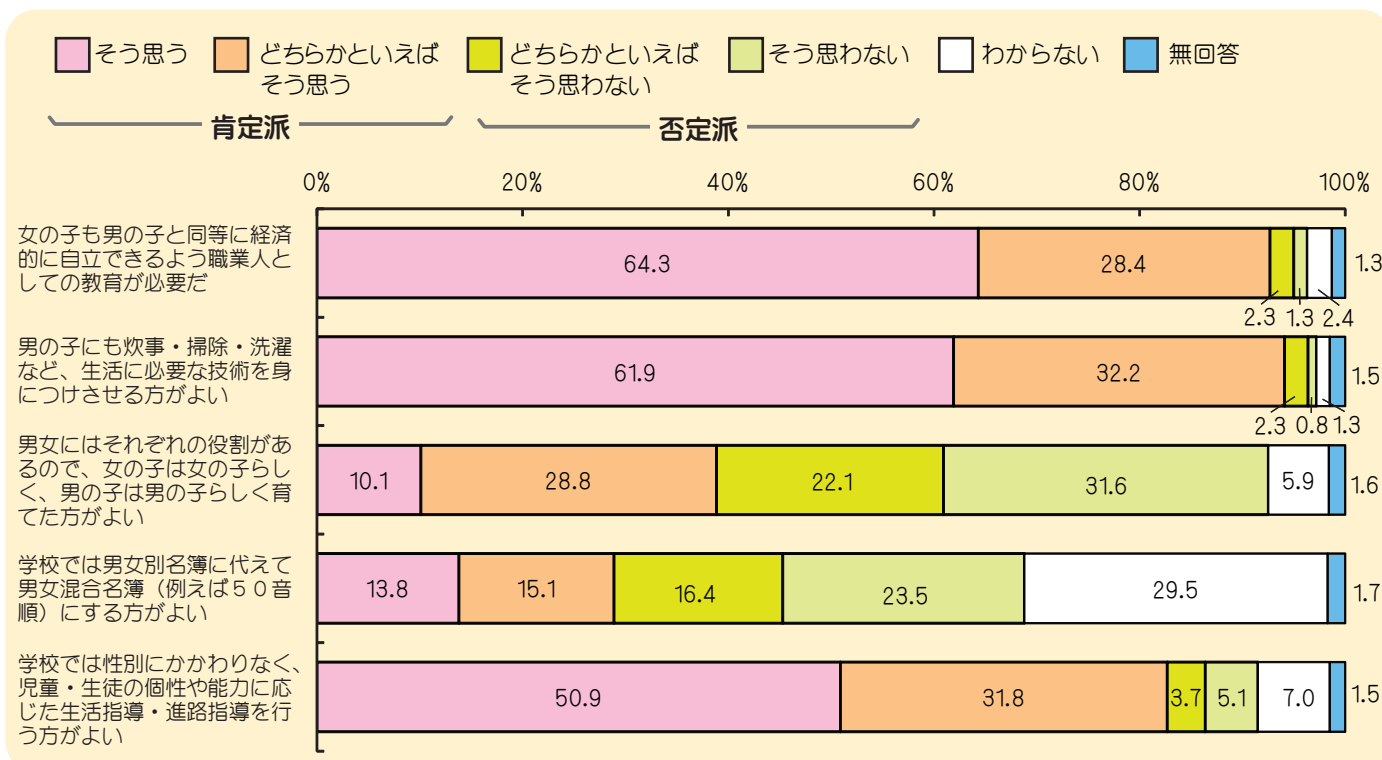
(3) 結婚に関する考え方について

結婚の形や離婚について自由な選択を認める人が多くなっており、全ての項目で、肯定的な考えを持っている人の割合が否定的な考え方をしている人を上回っています。



(4) 子どものしつけや教育について

女の子も男の子も同等に、経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だを超えています。一方で、「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく」「学校での男女混合名簿」は意見がわかれています。

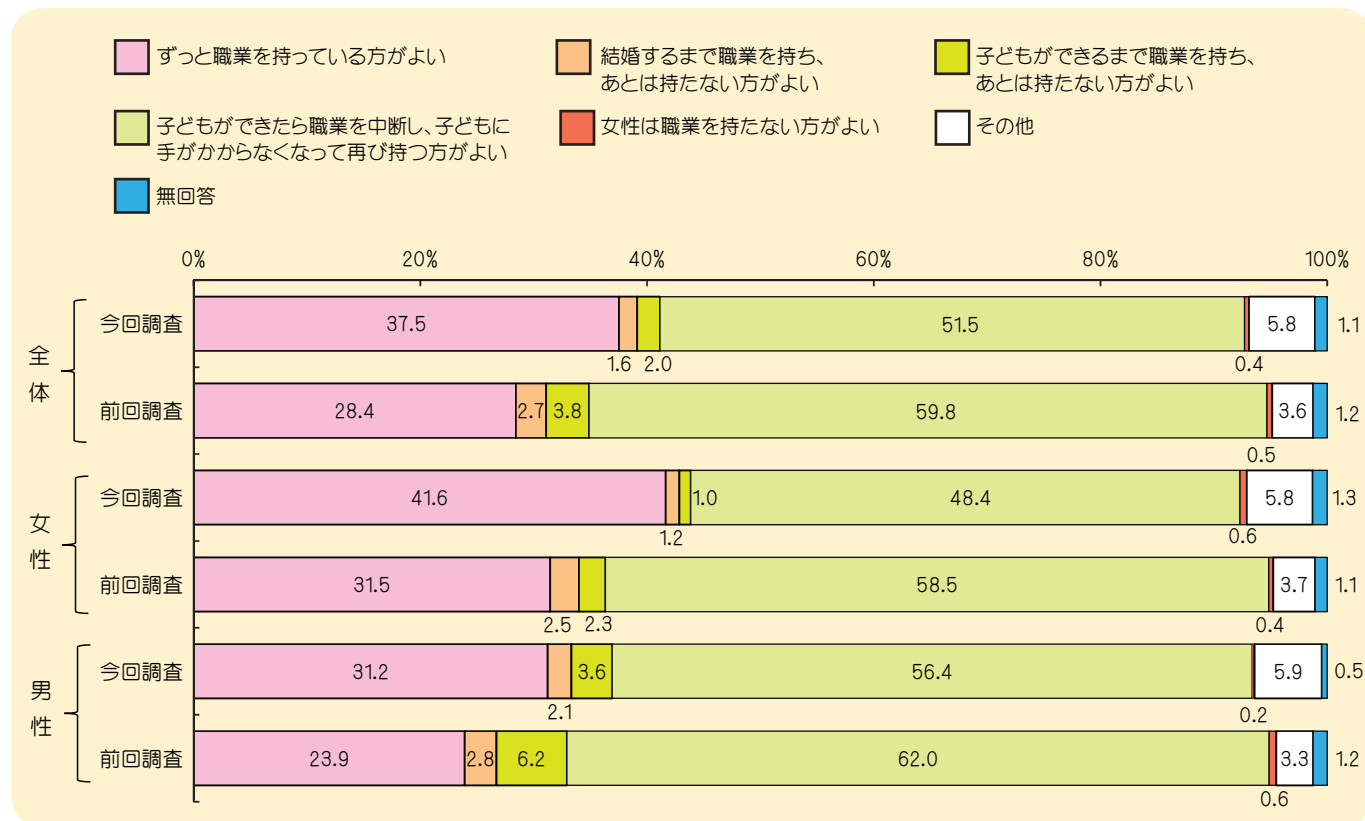


②

男女の働き方や女性の社会進出について

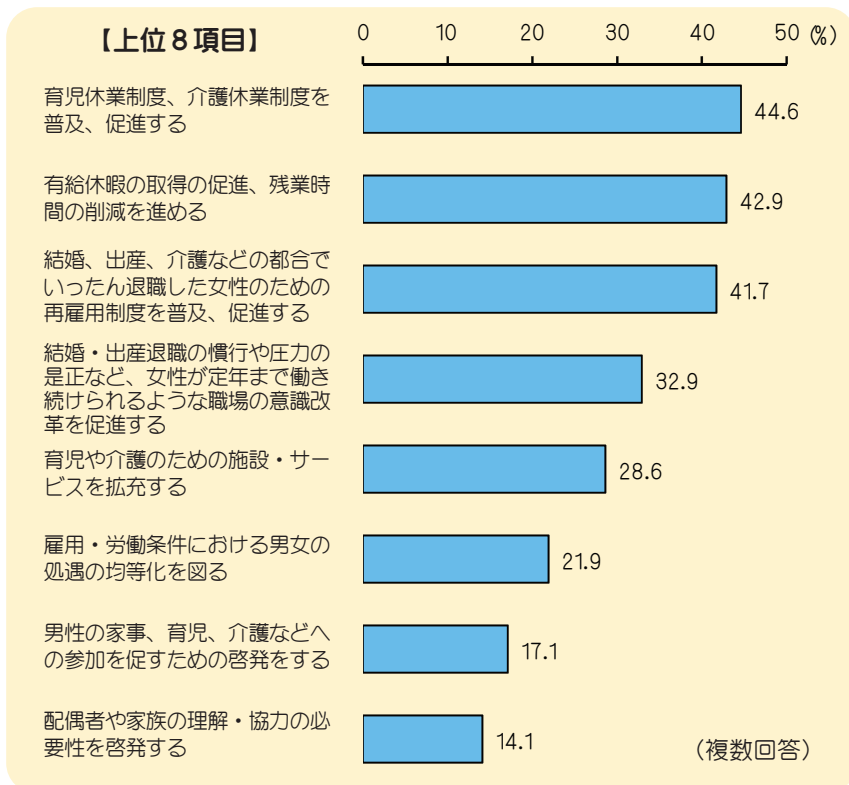
(1) 女性が職業を持つことの方針について

「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がからなくなって再びもつ方がよい」が大半を占めていますが、前回調査と比べると「ずっと職業を持っている方がよい」が増加しています。



(2) 男女がともに働きやすい職場づくりについて

「育児・介護休業制度を普及・促進する」、「有給休暇の取得の促進、残業時間の削減を進める」、「結婚、出産、介護などの都合でいったん退職した女性のための再雇用制度を普及、促進する」などの割合が高くなっています。

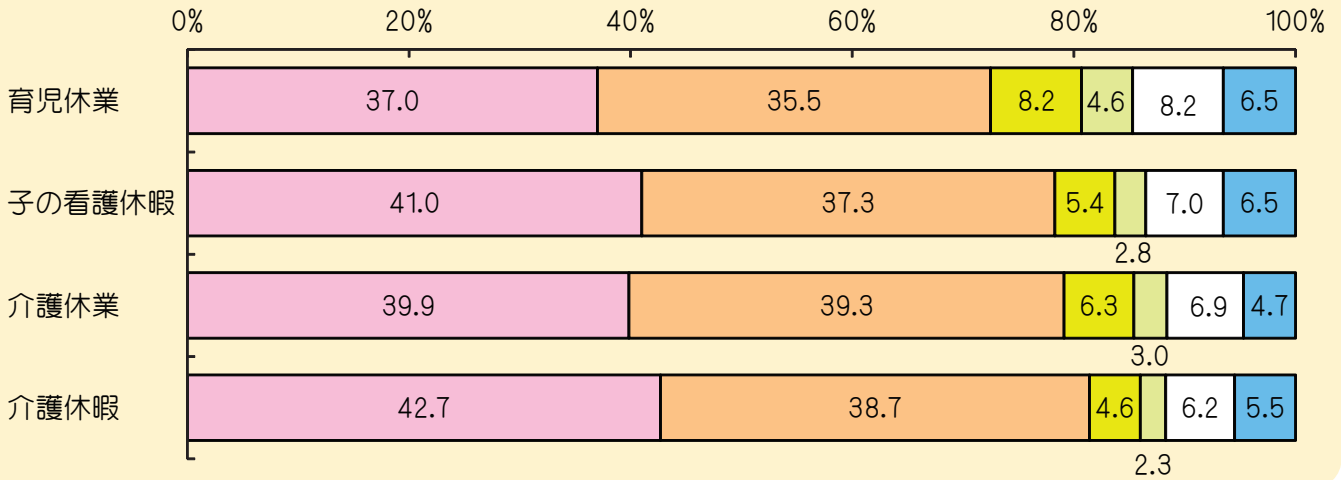


(3) 男性が育児・介護の休業や休暇を取得することについて

7割以上の人、男性が育児・介護の休業や休暇を取ることに肯定的に考えています。

といった方がよい
 どちらかといえばといった方がよい
 どちらかといえばとらない方がよい
 とらない方がよい
 わからない
 無回答

【自分・自分の夫の場合】

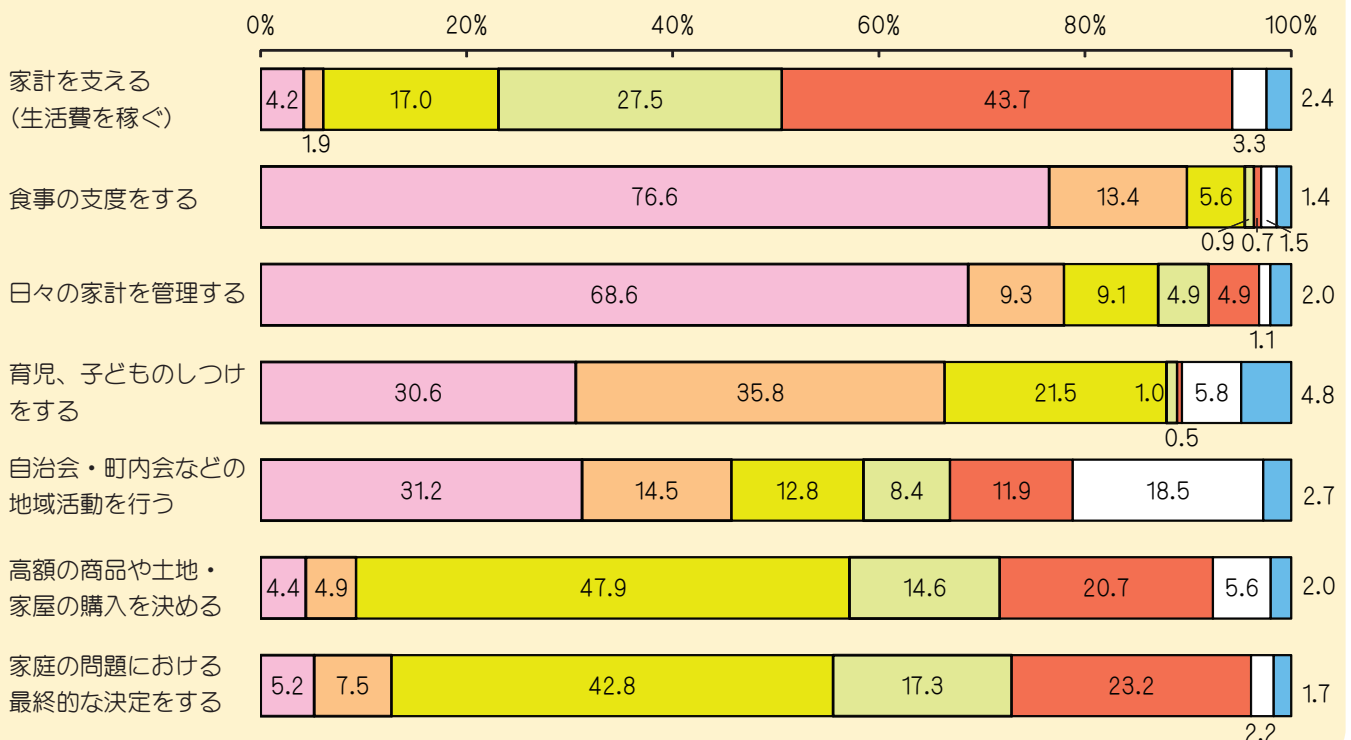


③ ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和) について

(1) 家庭内での仕事の分担について

主に夫が行っている割合が高い項目は「家計を支える」、主に妻が行っている割合が高い項目は「食事の支度をする」「日々の家計を管理する」などとなっています。

主に妻が行っている
 主に妻が行い、夫が一部を分担している
 夫と妻が同じ程度に分担している
 主に夫が行い、妻が一部を分担している
 主に夫が行っている
 その他
 無回答



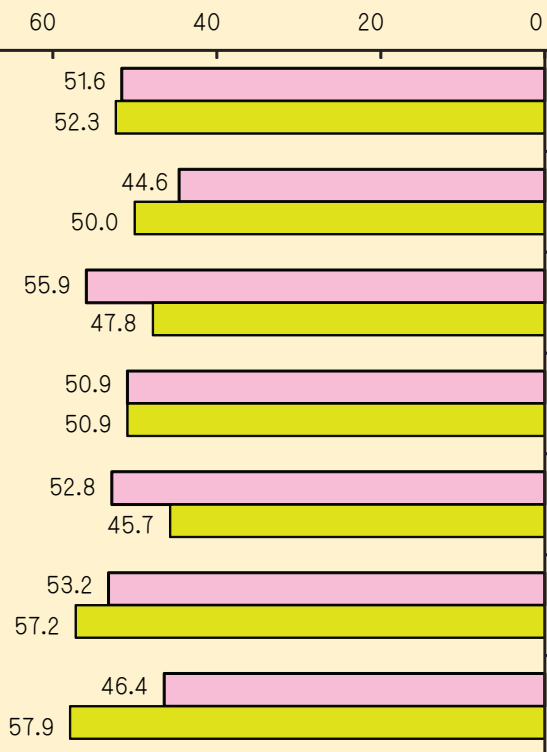
(2) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）に関する認識

仕事と生活の調和がとれている割合は、今回調査で初めて過半数を超えました。希望と現実に関しては、「仕事を優先」の割合が、希望に比べて現実では大幅に高くなっているなど、希望と現実のひらきが見られます。

【ワーク・ライフ・バランスに関する現状認識】

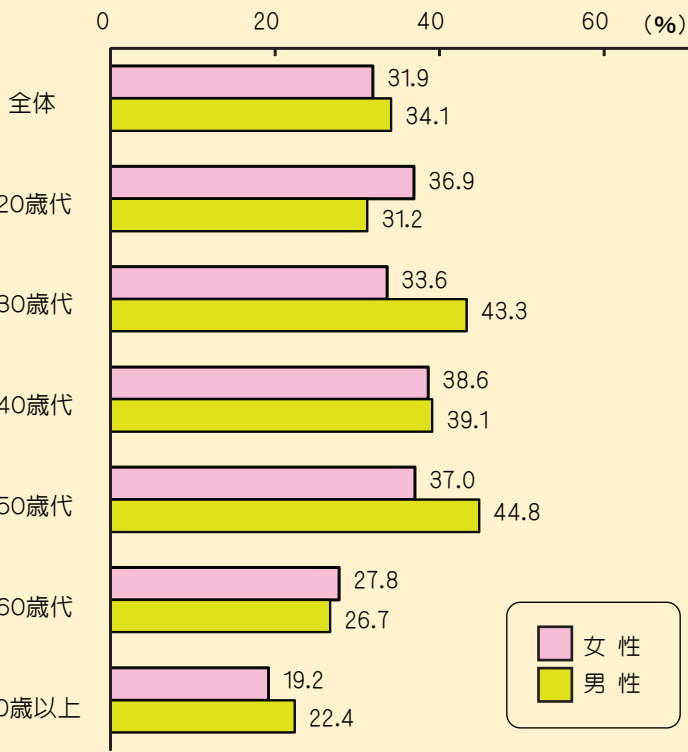
調和派

（「調和がとれている」、「どちらか」というと調和がとれている」の合

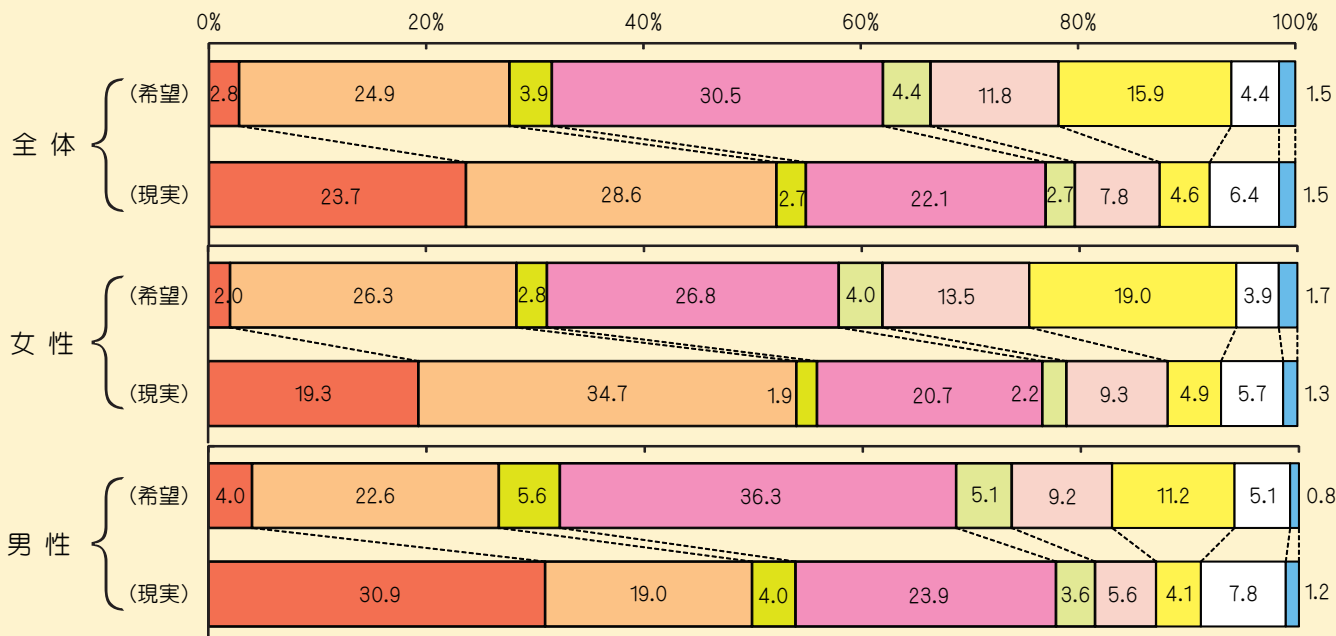
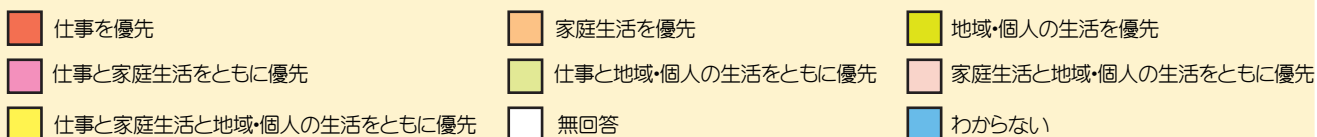


不調和派

（「調和がとれてない」、「どちらか」というと調和がとれていない」の合計）



【仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度（希望と現実）】



④ DV(ドメスティック・バイオレンス、配偶者等からの暴力)について

(1) DVの認識について

『どんな場合でも暴力にあたると思う』の割合は、どの行為でも高くなっていますが、「身体を傷つける可能性のあるものでなぐる」、「刃物などを突きつけて、おどす」、「足でける」の順で高くなっています。

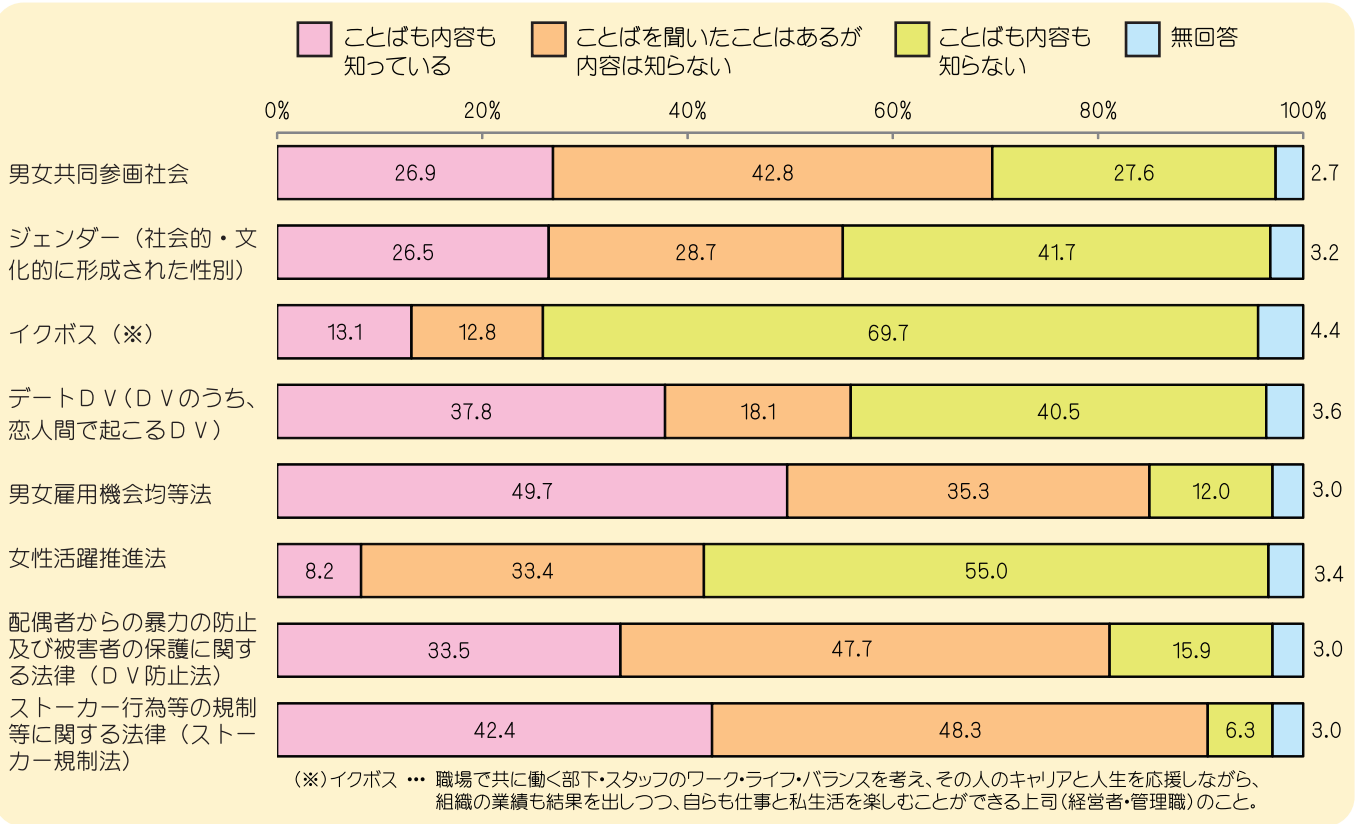
(2) DVの経験について

『被害・加害のどちらともない』の割合が最も多くなっています。一方で、『したことがある』『されたことがある』『被害・加害のどちらともある』を合わせた割合では、「大声でどなる」、「何を言っても無視して口を聞かない」、「ドアをけったり、壁に物を投げつけたりしておどす」の順で高くなっています。

	DVの認識				DVの経験				
	にどんな場合でも暴力にあたると思う	もあろうかと思う	暴力に当たるとは思わない	無回答	したことがある	されたことがある	ど被害・加害もある	ど被害・加害もない	無非回答
ア 平手で打つ	71.1	24.0	1.1	3.8	6.1	7.3	3.4	70.9	12.4
イ 足でける	85.1	10.7	0.4	3.7	3.4	6.8	2.5	74.3	13.0
ウ 身体を傷つける可能性のある物でなぐる	94.4	1.6	0.3	3.6	0.8	2.8	0.6	82.0	13.7
エ 物を投げつける	79.8	15.3	0.9	4.0	5.1	8.9	3.1	70.1	12.7
オ 刃物などを突きつけて、おどす	94.2	1.4	0.4	4.0	0.5	2.0	0.2	83.7	13.6
カ なぐるふりをして、おどす	68.3	24.9	2.6	4.2	3.7	6.7	2.1	73.6	13.8
キ ドアをけったり、壁に物を投げつけたりしておどす	71.0	22.7	2.5	3.8	4.7	10.6	3.3	68.5	13.1
ク 大声でどなる	49.6	41.9	4.7	3.9	14.3	15.4	9.8	49.0	11.5
ケ 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かしいょうなし(頼りにならない)」と言う	68.3	24.3	3.7	3.7	2.8	8.0	1.9	74.8	12.5
コ 交友関係や行き先、電話・メール・SNSを細かく監視する	53.7	33.7	8.5	4.2	1.5	4.3	1.7	78.8	13.7
サ 他の異性との会話を許さない	56.7	27.2	11.9	4.2	0.5	3.2	0.7	82.1	13.4
シ 家族や友人との関わりを許さない	63.7	20.9	10.7	4.7	0.4	2.5	0.3	83.1	13.6
ス 何をいっても無視して口を聞かない	56.8	30.3	8.8	4.0	7.1	6.8	6.3	66.8	13.1
セ 仕事に就くことや外出することを制限する	61.6	26.0	7.7	4.6	0.7	4.6	0.4	80.7	13.6
ソ いやがっているのに性的な行為を強要する	82.3	11.7	1.6	4.4	1.6	6.6	0.4	77.9	13.5
タ 見たくないのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せる	77.8	14.0	3.9	4.4	0.4	2.0	0.1	83.7	13.9
チ わいせつな写真や動画の送付をメールやSNSなどで求める	82.2	10.1	3.2	4.5	0.6	0.8	-	84.6	14.1
ツ 避妊に協力しない	72.6	19.2	3.5	4.8	0.9	3.5	-	81.8	13.8
テ 生活費を渡さない、一方的に経済的負担を強いる	81.6	11.3	2.8	4.2	0.4	3.9	0.1	81.7	13.8

(1) 言葉や法律等の認知度について

「男女共同参画」など言葉や法律などの認知度は比較的高くなっていますが、イクボスは3割以下となっています。



(2) 男女共同参画社会の実現のために推進すべき施策

「公的サービス（保育所・放課後児童クラブ・介護施設、保育サービスなど）を充実する」が最も多く、次いで「企業におけるワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の支援を進める」が求められています。

